

新しい発想と行動力で、地域活性化をけん引するとされる「よそ者」と「若者」「ばか者」。JR松江駅に赴任後、その一人たろうと、駅を生かした地域おこしに奮闘する内山興駅長が、思いとアイデアをつづる。

「えっ、ここ、『スタバ』ないの?」
2011年8月末。JR松江駅長に着任して1カ月が過ぎ、神戸から妻と4歳の娘を呼び寄せた時のこと。松江駅を見た妻が最初に口にしたのは、有名コーヒーショップがないことへの驚きだった。

松江駅長に着任した当初は、実は、不安でいっぱいだった。

そもそも島根県には地縁も血縁もなく、足を踏み入れた経験もほとんどない。会社から辞令を受

け取った時には、失礼な話だが、思わず日本地図を広げて位置を確認したくらいだ。
しかも、それまで大阪本社などでのオフィス勤務が長かった上に、JR駅長としては全国最年少(当時)の37歳。そんな若者に県庁所在地の玄関口の顔「松江駅長」の職責はあまりにも重い。
さらに、私はコテコテの関西人。真面目で我慢強く本音は出さないと

検定教科書手に各地巡る



松江市内の宍道湖畔に立つ筆者

われる山陰の人たちの中で、浮かずに生活できるのか。

しかし、来てしまったものは、仕方がない。思いついて、この宍道湖という「大きなお風呂」に飛び込んでみることにした。

朝は駅のホームや改札口に立って、あいさつや放送をし、昼は「飛び込み営業」さながら、地域

のいろんな人のところに顔を出しに行った。

休日は島根半島の東の端から西の端まで、「松江検定」の教科書片手に、神社という神社、温泉という温泉を片っ端から回ってみた。名物・出雲そばをはじめ、魚や肉、新鮮な野菜、お米やお酒も随分いただいた。

忘れられないのは、JRの制服・制帽姿でイカ焼きを買いに来た私を、不思議そうな目で見た美保園の屋台のおばちゃん

うちやま・こう 神戸市出身。東京大学法学部卒。1996年、JR西日本に入社。東京本部、総合企画本部などを経て2011年7月、JR松江駅長に着任。安来、松江、出雲の3市にある山陰本線17駅を管轄する。39歳。

.....
の顔。朝日に輝く宍道湖に、シジミ船が浮かぶ光景も、何度見ても美しい。この地には温かい人がいて、豊かな資源がある。「ここなら頑張れるぞ。家族も喜んでくれる」。

温泉につかりながら思った。幸運にも、宍道湖を見渡せる小高い丘の上に一戸建ての住まいを見つけた。

しかし、当地に来て1カ月でやっとそんな気持ちになれた私に、根っからの都会育ちの家族が課した「宿題」は、あまりにも大きい気がした。

(JR松江駅長)
第2、4月曜掲載

不安とやりがい

